

ぱれっと

2013
3月
No.163



サポセン2013年復興支援事業報告

P 2~5

特集 | 復興のひとづくりを考える報告会

● 第一部 事例報告

パネリスト

南蒲生町内会復興部 えんの会

「被災地域住民からの地域づくり」

六郷・七郷コミネット

「NPO・行政・企業による協働ネットワーク」

公益財団法人共生地域創造財団

「地域人材育成の今」

● 第二部 地域づくりと地域人材に関するパネルディスカッション

コーディネーター

鈴木孝男さん(宮城大学事業構想部 助教) 「地域人材の役割と育成」

P 6

市民活動サポートセンターからのお知らせ

● ぱれっと は、市内の公共施設、県内外のNPO支援センターなどに送付しています。

特集

復興のひとづくりを 考える報告会

仙台の復興支援とその人材に関して

2013年2月22日（金）14:00～16:30
仙台市市民活動サポートセンター 6F セミナーホール

サポセン
事業報告

これからの復興の鍵は「地域人材」。住民、企業、NPO、行政など多様な主体と人材が関わり合うことが、復興そして地域の力になります。

そこで今回は、地域の復興に取り組む団体の活動報告から、地域を担う人材の育成や課題について意見交換を行い、課題解決のヒントを得るため報告会を開催しました。

活動事例報告



被災地域住民からの 地域づくり

南蒲生町内会復興部 えんの会

報告者：吉田 祐也 さん

南蒲生町内会は、仙台市宮城野区東部沿岸部にあり、今でも互助組織である「講」があったりと「住民同士のつながり」を大切にしてきた地域でした。震災で津波被害を受け、仮設住宅や民間借り上げ仮設住宅などへ入居せざるを得ない方もいて、コミュニティが分断されてしまいました。また、2011年11月ごろ、災害危険区域の見直しがあり、災害危険区域に指定された一番海側の地区と、災害危険区域から外された地区ができました。これにより、町内で住民の状況が移転・現地再建と、三者三様に分かれてしまったのです。

NPOなどの支援団体とともに仮設住宅や小学校などで住民交流のためのイベントを行って行く中で、地域住民のつながりが戻り、2012年1月に南蒲生町内会の中に「復興部」が結成されました。

現地再建や移転再建のための行政への要望とともに、自分たちの地域の良さや文化・歴史を見直し、もう一度盛り上げていこうと復興まちづくりに取り組んでいます。復興まちづくりに取り組んでいく上で、住民だけでは、まちづくりのノウハウや知識が

足りていなかったもので、まちづくり専門のNPOである都市デザインワークスにアドバイザーとして関わってもらっています。行政に要望してだけでなく、NPOや企業と連携・協力しながら、住民ができることは自分達で主体的に取り組んでいきたいと考えています。

そして、ワークショップや話し合いを重ねるうち、「若い人の意見をもっと多く取り入れた方が良い」という声もあり、地域のために何かしたいという20～50代の若手で「えんの会」を結成し、勉強会やまちづくり活動を行っています。他の被災地でも同様だと思いますが、震災を契機に、そういった新しい人材をどう巻き込むか。新しい地域を一緒につくっていく仕組みをどうつくっていくか。それを考えていきたいと思っています。

南蒲生町内会復興部 えんの会

HP <http://blog.canpan.info/okada/>
E-mail minamigamou@gmail.com

NPO・行政・企業による 協働ネットワーク

若林区 六郷・七郷コミネット

報告者：鈴木 誠 さん

コミネットは、2011年11月に設立した、被災された方の生活支援を行う官民協働のネットワーク組織です。ネットワーク構築事業・地域誌作成事業・お茶っこ飲み会事業という3本柱で事業を行っています。多様な団体がさまざまな関わりをしていく中で、より良い支援につながるようなコーディネートをし、柔軟な対応をしていくことがコミネットの本質と考えています。

コミネットでは、被災地外からの支援の窓口も担っていますが、ネットワーク組織のため専任者がおらず、事務局機能が弱いという課題がありました。そこで総務省・宮城県が設置した制度である復興応援隊を活用。復興応援隊2名を事務局に迎え、事業を行っています。「六郷・七郷の今」ということで現地取材を定点観測的に行い、インターネットを活用して情報発信をしてもらっている他、事務局として支援状況の収集、コミネット参画団体の把握、会議運営などを現在、応援隊に担当してもらっ



ています。今後は応援隊独自の事業企画・運営ができるよう育っていったらいいと考えているところです。

これから復興住宅に移れば、また多様なコミュニティが点在することになります。新しいコミュニティのつなぎ役として、今後復興応援隊に寄せられる期待や需要は高まると思っています。息の長い支援が必要です。それに関わる人材の育成といった意味でも、将来の地域の宝として、復興のまちづくりを担う応援隊は期待されています。

六郷・七郷コミネット事務局

(若林区役所まちづくり推進課内)

〒984-8601 仙台市若林区保寿院前丁3-1

TEL:022-282-1111 内線6136 FAX:022-282-1152

E-mail:67cominet@city.sendai.jp

HP:http://67comi.net/



地域人材育成の今

公益財団法人 共生地域創造財団

報告者：配島 一匡 さん

共生地域創造財団は、ホームレス支援全国ネットワークと、西日本・東日本の生協が母体となり、震災後に設立しました。物資支援から始まり、今は被災された漁業者・農業者支援を行う産業復興、見守りなどの生活再建支援、就労支援・中間的就労の場づくりを行っています。

現時点での復興の担い手は、地域において何らかの要職に就いている方で、その人数は多くありません。多くの住民の方々が積極的に活動に踏み出せない理由は、「小さな実行」をする機会がなかったか

らです。いつも誰かがやってくれるとか、他人の意見にまかせてしまうというこの状況が、地域・コミュニティづくりに弊害があるのではないかと考えていたので、住民のニーズを実行する際には、多くの人を巻き込んで進めるように工夫しました。

つながりたいと思っても、祭りなどの“何か”がないとできないもの。それを手伝うのが私たち外から来た者の役割ではないかと思っています。地域の意思を表示するというのは、もちろん地域

の方々がやることで、それを手伝うのが関係者なのです。

「誰が地域を担うのか？」制度・既存の仕組みは、確かに必要ですが、10年20年先も継続してあるものではありません。もともと持っている住民のチカラをどう引き出すか。地域の範囲は小さくていいのです。今まで地域に出てこなかった人々が「小さな実行」をして、それを面に広げる。そ

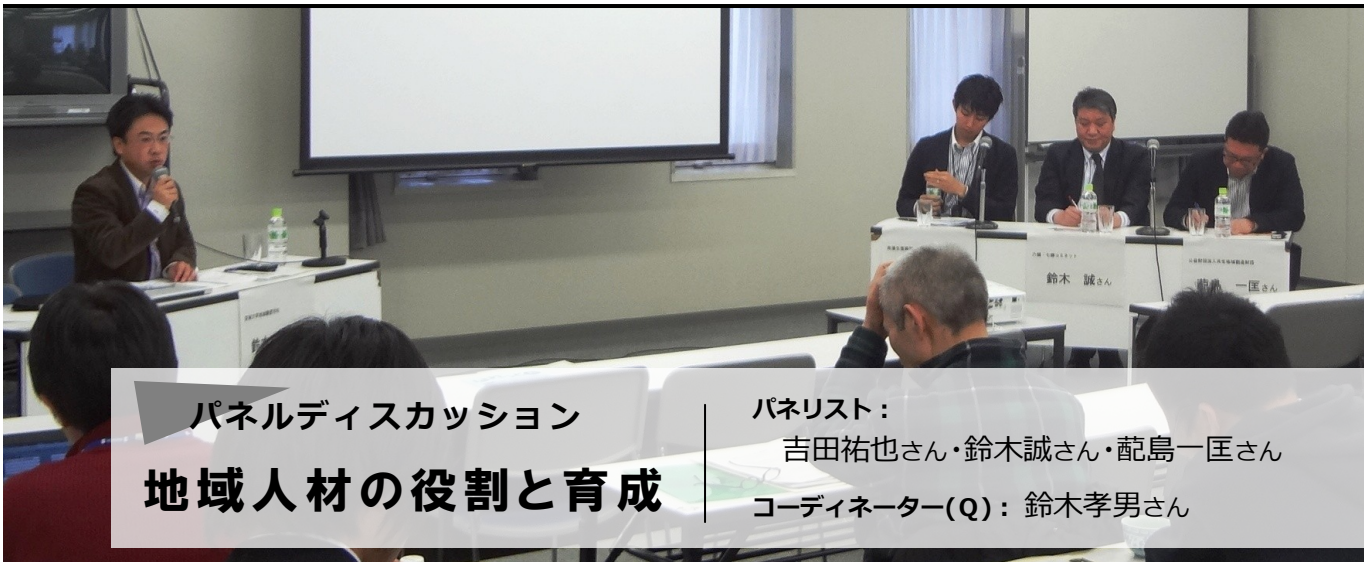
してみんなで復興のコミュニティを目指していくことが大切です。

公益財団法人 共生地域創造財団

代表 奥田 知志

TEL 022-748-6336

HP <http://from-east.org/>



パネルディスカッション 地域人材の役割と育成

パネリスト：

吉田祐也さん・鈴木誠さん・配島一匡さん

コーディネーター(Q)：鈴木孝男さん

Q：地域をつくる人材が少ないとお話を聞きますが、人が動きやすい環境づくりの難しさや工夫がありましたら教えてください。

吉田：今後10年20年かかる地域の復興を担う若手住民が、町内会の中で復興まちづくりに関わりやすい環境や活動づくりが大切だと思います。外部のサポートとして都市デザインワークスさんに、事務局のサポートやアドバイスをいただきながら、若い人が関わりやすい参加型の植樹活動などを中心にまちづくりを進めていこうと考えています。

鈴木：若林は町内会単位で動いています。まずは町内会単位の長老的な存在に声掛けをするところから始めています。震災を機にやっていたいかなければならないのは、女性・若い人の活用をどう図っていくかということだと思っています。

配島：活動を起こす時は、地域の人へじっくりヒアリングします。その中でだんだん見えてくるものがあり、「この人に言ってもらおうと話が動く」というのを見極めるのに時間がかかります。人が動くことができる単位を見極めていかないと何もできなくなってしまいます。小さな単位で実行していくことを心がけています。そこから波及していけばいいなど。浮いてしまわないようにするのも気を付けないといけないが、実行してみせるということも大事です。

Q：若林・宮城野両区の団体は行政に一方的に依存しない、非常に自立した地域ですが、地域の自立には何が必要

ですか？

吉田：外部のリソースを上手く生かすことだと思います。地域の中だけで考えるのではなく、町内会がNPOや企業などと連携してまちづくりを進めていく、新しい地域の枠組みが作れたらと思っています。

鈴木：応援隊の派遣は3年間。自立した地域を作る人材として、3年で応援隊が地域に根ざせる道筋をつけないければなりません。

配島：アメリカではオーガナイザーという、地域を見つめながら多方面の資源を有効につないでいく役割があります。現在、地域の中心になっている60～70代の方に、今のうちに外とつながりを持ってもらい、多様な人が入ってくるようにしておくといいと思います。

Q：正直、復興のための地域づくりは苦勞が絶えないと思いますが、それに関わろうとする理由はなんですか？

吉田：震災があつて、さまざまな地域の方々に助けられ、改めて地域のつながりの大切さに気付かされました。日本社会の中で失われつつある地域の姿ですが、また震災前のような地域のつながりがある南蒲生を取り戻したいと思い、地域づくりに取り組んでいます。

鈴木：この地震と津波の大惨事から、何かしなきや

ならないと思っていました。その中で若林区まちづくり推進課への異動の拝命を受け、現在のこの仕事ができるようになったものですから、やらせていただいているというのが現状です。

鮎島：知ってしまったから。出会ってしまったから。こんなステージを与えていただいて、ここで何かをしなくちゃ、波及していかない。外から入ってきた人間として、伝える役割があると思っています。



鈴木 孝男さん (宮城大学事業構想部 助教)

農村計画・地域計画について研究。特定非営利活動法人まちづくり政策フォーラムの代表理事、東北圏地域づくりコンソーシアム推進協議会の理事として、様々な協働の場づくりを行い、復興まちづくりにも取り組んでいる。



参加者の声

地域人材に望まれること

ご参加くださった方々は、被災者自立支援団体や大学、復興応援隊、地元活性化に取り組む市民団体、文化活動で被災地復興に取り組む団体など、日々現場で活動する方々です。

パネルディスカッション後半では、それぞれの現場で感じられていることを、またアンケートでは、今後話し合っていくべき「ひとづくり」のテーマについて伺いましたので、一部をご紹介します。

地域に眠る人を引き出すための仕掛けづくりに注力することが必要。

地域の自立化支援と、応援隊・支援員が食べていけるようになることが、どう関連付けられるか、興味深いと感じました。

まず地元の人活躍できる場をつくり、自立を促すことで主体的な人材をつくっていく。

地域のコーディネーターを地域人材から育成する。いかに黒子に徹する人材をつくるかを考える必要がある。

内陸部から沿岸部への寄り添いボランティアの育成が必要。



これからの復興、地域づくりに関して意見交換がなされた今年度の報告会においては、地域の人々と地域外の人々が交流する機会の必要性や、震災が起こる以前からの地域の高齢化や人口減などの課題の生の意見を聞くことができました。そして、これから続く地域の復興を含めたまちづくりには、地域の人材が地域で暮らせて行ける仕組みやその準備を早くから進める必要があるのではないかという共通の認識が会場内で共有された報告会となりました。

(菅野祥子)

市民活動サポートセンターからのお知らせ

**発行
します!!**

3.11からの支援のかたち 2012
～仙台の復興支援活動この1年～

東日本大震災から2年が経過した現在、被災地では様々な協働による復興支援活動が行われています。サポセンでは、震災から2年目の仙台における市民活動の動きをまとめた冊子を発行します。今後の復興に向けた支援のありかたを考えるうえでも、被災地における市民活動記録としても、仙台から広く情報発信していきたいと思っております。どうぞご覧ください。

2013年3月末 1,500部 発行予定!

サポセン窓口にて配布いたします!



平成25年度

図書委託販売 受付のお知らせ

市民活動団体が発行した書籍等をサポートセンターの図書販売コーナーで販売いたします!ぜひご利用ください。

対象図書

- ・市民活動団体が発行する報告書やテキスト等
- ・市民活動を支援する図書(法制度の手引き。NPO基礎情報関連等)

委託冊数

- ・1団体2種類、1種類につき10冊まで。

委託期間

- ・年度単位の原則1年間(4月から3月末日まで)。事前の申し出により、1回限り更新可能。

決済方法と手数料

- ・年に2回(10月と4月)に、手数料10%を差し引いて精算。

★お申し込み方法など、詳しくはサポートセンター窓口までお尋ねください。

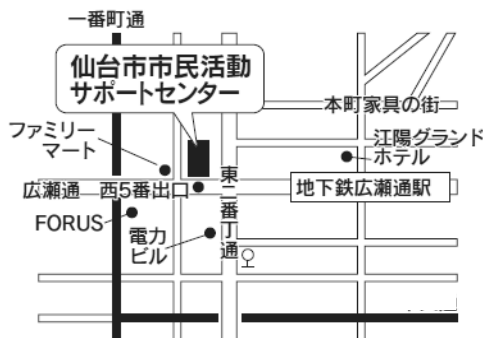
■ 仙台市民活動サポートセンターとは

さまざまな分野の市民活動団体やNPO、ボランティアなど、非営利で公益的な活動をしている人たちや、これから活動しようと考えている人たちのための拠点施設です。

■ 仙台市シニア活動支援センターとは

これまで同様、シニア世代の地域・社会参加活動を応援していきますので、お気軽にお問合せください。

■ 案内図



○当施設に駐車場・駐輪場はございません。お車や自転車で来館される方は、周辺有料駐車場・駐輪場をご利用ください。

注) 路上駐車・駐輪は、周辺の迷惑となりますのでおやめください。

○ご来館の際は、公共交通機関をご利用ください。

[最寄のバス停] 電力ビル前、商工会議所前

[地下鉄] 広瀬通駅下車、西5番出口すぐ

■ 開館時間

平日：午前9時～午後10時・日祝：午前9時～午後6時

■ 休館日：毎月第2・第4水曜日(祝日の場合は翌日木曜日)及び、年末年始(12/29～1/3)

■ 相談・つながるサロンとは

平成24年より、これまで別々だった市民活動サポートセンターとシニア活動支援センターの相談窓口を3Fに集約し、じっくりご相談いただける環境を整えました。

このようにご相談おまかせください

- ・市民活動の立ち上げ、法人格の取得
- ・団体運営、組織運営
- ・復興支援活動
- ・シニア活動、セカンドライフ相談 など

相談時間

- ・平日：午前10時～午後8時
- ・日曜・祝日：午前10時～午後5時

編集後記：

今月のぱれっとは、2月22日に開催した復興支援活動報告会の様子の特集しました。東日本大震災から2年が経ちましたが、復興のまちづくりは、まだまだこれからです。サポセンは、復興のまちづくりに取り組む皆さんを応援していきます。(スタッフ一同)

発行：仙台市民活動サポートセンター

仙台市シニア活動支援センター

〒980-0811 仙台市青葉区一番町四丁目1-3

TEL 022-212-3010 FAX 022-268-4042

HP <http://www.sapo-sen.jp>

ブログ <http://blog.canpan.info/fukkou/>

発行日：2013年3月11日

編集：特定非営利活動法人 せんだい・みやぎNPOセンター

編集人：小松州子 菅野祥子 太田貴 葛西淳子 松村翔子

仙台市民活動サポートセンターは、特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンターが仙台市の指定管理者として、管理運営を行なっています。[指定管理期間：2010年4月1日～2015年3月31日]